生活デザイン科ということで得られた成果は何ですか。（2023年度卒業生）
生きるスキル
基本的な裁縫のやり方や、教育、保育、介護についての知識を得ることが出来た。
今後生きていく上で必要なことを学んだ
生きる上での成果が分かった
命の尊さ、大切さ
消費生活センター　188 かつおだしの可能性
生活について学ぶことが出来た。
生活のために必要な基本的なスキル
イージーパンツを作ることが出来た
食べ物からの栄養のとり方、食事のマナーや基礎知識、衣類の基礎知識
調理の工程や仕組みを学んだ。
実生活に役立つ調理の知識だけでなく、消費についてなどの身の回りで困ったときに役立つ知識を学びました。
家事の仕方、注意すべき点を学べた
福祉について学んだ
日本で生活する上で知っておかなければいけないことを学んだ(住居とか資産とか)
保健の分野なども学べて現在の生活や将来の生活で大事になることを広く学ぶことができた。
生活していくために必要な知識を得た
ズボン作り、
生活する上で、必要な技術と、それを習得するむずかしさ
各地の文化について衣食住を通し学ぶことができた。また、料理についても体験を通して学んだ。
出汁の取り方や、基礎的な洋服の作り方などの、生きる上で必要不可欠な情報を学ぶ事ができた。
この授業を通して、1番の学びは出汁の取り方を学んだ。出汁の種類によって違うんだと学んだ。
家庭科の授業内で調理実習を行う際、食中毒への注意や献立を立てる際の栄養素の偏りがないか、ということへの意識を向けることができた。また、裁縫や株、家族についてなどのことを学ぶこともでき、この先、自立し、自分で自分のことをやらなければいけなくなった時に必要なルールやものを学ぶことができた。
基礎的な洋服な作り方や郷土料理、だしの取り方など様々な自分の実生活に関わることをたくさん学ぶことが出来た。

家で実際に使用する衣服を作れたのは素晴らしい経験だった。どう使うかというデザインを前提に考える機会があったのも良かったと思う。
食に関する内容を学ぶことで生きるための基礎を学ぶことが出来た。そして、服飾を通して、生活を豊かにする知恵を学んだ。
調理実習などで母への感謝の気持ちを忘れないようにしようと思うことができた。
衣食住の基礎知識、実生活に活かせる知識、技術を得られた。
生活力向上
現在生活している家庭での家事や、将来使うであろう過程における家事の知識や社会知識などを知ることができた。
・子どもの発達に詳しくなった。 ・ズボンの仕組みを知った。
イージーパンツの作成
生活デザイン科の授業を受けて、日常生活において役に立つ知識を得ることができ、また調理実習などで実際に授業内で実践することでそれらの知識を身につけることができた。この授業で得た知識はこれからの生活に役立っていくと思う。
生活に関わる世の中の仕組みなどの理解
衣食住について深く学ぶ
軟水とか硬水とかの種類について
生きる力
生活デザイン科が様々な分野に渡ることを学んだ。私は生活科では、料理や調理に関する知識のみが先行していたが、多年度に分けて学ぶことで、洗濯・裁縫・児童・暮らしについての学びを深めることが出来た。
生活をデザインする能力が身についた。
実習が多く、自分のズボンを作ったりと手を動かすことで繊維について、また様々な料理について理解することができた。
他者理解
日々の食事、住まいといった日常生活における栄養素(タンパク質、脂質、炭水化物、無機質、ビタミン 五大栄養素)、食中毒への対処などの知識、更に人生プラン、認知症、老人ホームの種類といった、今の年齢では考えないようなことに対しても学びを通して触れ、将来において役に立つことを教わった。 また、調理実習やミシンなどの実技的な授業を通してより深く理解することができた。
借金
調理の技術や栄養などの知識、衣服の役割と縫製、住居の構造.
調理実習や裁縫の学習を通じて、日常生活で最低限必要な家庭科の技能や知識を学ぶことができた。
玉留め

調理実習から人と協力すると割と何とかなるということが得られた
イージーパンツの製作過程で得た衣類の扱い方や損傷の際の正しい対処など、生活していく上で今後必要になってくるいわば教養的な面について学習し、実践的な演習等も行なった。
消費者トラブルについて学ぶことができた。
生活力
クーリングオフ等の詐欺にどう対処していくかや様々な投資形態とそのメリット・デメリットを学ぶという、今後社会に出たときにうまく生きていくための力を培ったと思う。
硬水と軟水の違いについて体験をとおして理解した
自身の管理能力や健康的なライフスタイルの構築に向けた学習をすることができた。
現在においてよく聞く言葉の意味を授業を通して知ることができた。環境問題の問題点についてフォーカスされているのはいい。
生活デザインという名前が何を目的にしたものかはいまいちよく分からないまま家庭科という捉え方をして勉強をしていた。
投資仮想人生ゲームや調理実習、老年介護の介抱等を実習を通して行うことで理解を深めることと理解の深め方を得た。
一般知識の会得
常識が身についた。 専門的な学習ではなく、知らないといけないことを学んだと思う。
衣服や、食生活について興味をもつようになった
生活をデザインするということで、どのようにしたら自分たちの生活が豊かになるかに焦点を当てていたように感じた。これによって、自分たちの生活をより良いものにするために、老人ホームなどをはじめとした社会の制度を学べたと考える。
家庭科に関する知識を得られた。また、ムービーフェスタでは、人に情報を伝える力や表現力も身につけることができた。
生活力
五大栄養素の種類。それぞれの主な食品。中華や洋食、和食などの料理の作り方。世界の国それぞれに適した家の構造。手縫いやミシンを使った裁縫の仕方。老人ホームや特別養護老人ホームなどの介護施設について。買い物の際のクレカや現金などのメリットデメリット。子育ての仕方。軟水と硬水の違い。イージーパンツ作り。
家庭科だと衣食住に重点を置いた科目の印象が強いが、生活デザイン科では、金融トラブルや介護問題など、将来に向けて有用性がある問題について学ぶことができた。
金銭面に関する常識や、知識、などのように生きていく上で必ず出くわすものに対しての教養が得られた。

特別養護老人ホーム、グループホームなどの介護施設について、調理実習で中華料理を作った、だしを使った料理、イージーパンツを作った、消費者トラブルを学び、動画を作った。
1人で生活することの厳しさ。
自分でものつくりや、料理をするなどの力 住居のことなどが学ぶことができた。
生きていく上での様々な知識
日常でも使える料理や裁縫などを身につけられた。
食料の世界は闇深いということ。今まで何にも考えてなかった食料についてだが、お肉など自分が食べるものは世界と繋がっていて、安い食品には安い理由があることを知った。今まで知らなったから、すごく有益で衝撃だったから今でも覚えている。
日本の教育の課題 育休問題
家庭に限らず将来生活していくにあたり必要な知識や能力を学ぶという意識のもと学習をすることができた。
調理実習や裁縫といった、いわゆる家庭科の内容に加えて消費者トラブル等のより応用的な学習が得られ、成人する上での抵抗が低減した。
調理実習が多く、実生活でも使えそうなことをたくさん学ぶことが出来た。
社会の問題や仕組みを知れたこと。
社会で生きていくのに必要な知識。（衣食住に関すること、消費者生活に関すること）
子育てから調理実習まで、社会に出る時に必要となる技能を得られたと思う。
裁縫や調理などの実技的な部分に加えて、保険や詐欺の話など、実際に自分の生活や将来に関わってくるような学びもあった。
日常の中に必要なもの、ことを実技を通して自分の中で使えるものにしたこと。今後人生で必要になるものを教わった。
調理実習などは複数人で協力して行うものだったので、コミュニケーション能力が鍛えられた。
小学校の時の家庭科との違いは特に感じない。ミシンの技術や子育てに関する知識など、基本的な能力は身に着けることができたと感じている。
手芸
ミシンを上手く扱えるようになった。
料理をするときに段取りを考えられるようになった。
実習や班の人と消費者トラブルに関する動画を作成するなど、ただ教わるだけではなく体験や実践の機会が多くてさまざまな生活スキルが身についた。

調理実習や裁縫などいろんなことを体験できたことが楽しみながら学ぶことに繋がっていたなと思います。消費者トラブルなど自分たちでテーマを決めてプレゼンしたり、テーマに関連したドラマ・映画仕立ての動画を作成し、クラスで見せ合った授業は、制作する前に学んだこと制作しながら学ぶこともできたし、他の班の発表を見て初めて知ったこともたくさんあったので、とてもいい授業だったなと思いました。介助の体験をした時も、自分が思っていたよりも難しいことと身近にあるということが分かりました。
衣服の時代での移ろいについての知識
猫の手大事。中指切るぞ 家事って大変だし細かいしでも何となくでできそうな、まさに生きる知恵みたいな感じがした。服は全部洗濯機にぶち込んで洗剤で洗えばいいって思ってた…
お金が世の中でどのように回っているか
生活に潜むトラブルについて考える授業でオリジナルムービーを作り、それによって授業内容が印象に残った。
名前に関しては、自分自身は家庭科と呼んでしまっていたので、生活デザイン科と呼ぶことで得られたものはあまりないように感じる。 内容面では、食材に含まれる栄養素や、洗濯の仕方など、基本的な教養を身につけられた。
生活デザインでは、ムービーフェスタという課題が一番印象に残っている。それぞれの班が、振り分けられたテーマでムービーを作成するというものだ。その事柄を学ぶのではなく、それを吸収してどうアウトプットする方法が特殊で面白かった。
それぞれ、被服と調理に分かれて、それぞれに特化した授業だったので、専門的であったと思うが、ほかの教科とのつながりの多い生活デザインでほかの教科との連動性を感じられなかったことは残念であると感じている。
将来自分の力で生きていく上で必要な最低限の知識をつけることができた。また映像の視聴や作成を通し社会的な問題を身近に感じることができた。
3年間を通して、栄養や化学物質など食品に関する知識や、衣服の性質や作製を通した衣服についての知識、消費者としての自覚や危機を学ぶこと、さらに介護に関する知識など、今後の生活に生かすことのできることを学んだ。
家庭科というと家庭内の物事に限定される気がするけれど、生活デザイン科という名前の通り生活全般を包括する学びができたように感じる。 学ぶ内容は家庭科と変わらないと思うが、カリキュラムから考えると生活デザイン科という名前のほうがふさわしいと感じる。
社会生活において基本となる技能や、社会の中の様々な制度やしくみについて学ぶことができた。

教科書に家庭科と表記があるため、日常的にやはり「家庭科」と言ってしまい、「生活デザイン」であることを意識したことがほとんどありませんでした。そのため、家庭科ではなく生活デザイン科と呼ぶことで得られた成果について感じたことはありませんでした。
最低限暮らしていけるようなバランスの取れた食事のメニュー、作り方。
社会の法整備(特に休暇など)が変わってきているということがしれた。
衣食住に加えて保険や投資など、社会に出たときの為になることを学んだ
普通の学校を知らないので比較のしようがない。どんな点で通常の課程から外れたことをやっているのかということを事前に示されておらず、回答不能。
普通の家庭科と何が違うのか分からないので成果は分からないが、ムービーフェスタはなかなか学ぶ機会のない消費者トラブルを現実的に考えることができるきっかけになった。
自立した生活をする上での最低限の知識、暮らしの中での注意点や目の配り方
家庭に関してのことだけではなく、日常生活を豊かにするような内容を授業で行うことがわかりやすいということ
生活、特に縫物関係などの知恵
生活デザインの授業では、今後社会に出ていく上で重要なスキルや知識を学ぶことが出来ました。調理実習や教科書の学習はもちろんのこと、生活にまつわることについて班ごとに発表をする場も設けられており、より主体的に学べたと感じています。
生活デザイン科では、主にこれから生きていく上で必要なことを学ぶことができた。その一例として金融や介護といった、より実用的なものだ。これらのカリキュラムによって、金融や介護について詳しく知ることができ、かつこれからの将来を考えるきっかけになった。